

P-5B-90

血管造影室における術前訪問の評価 ～画像看護師へのアンケート調査を行って～ 熊本赤十字病院 画像診断治療センター

○岩村 由紀美、松本 由佳

【はじめに】 A総合病院の画像診断治療センター（以下画像C）では平成23年4月より、継続看護の充実、チーム医療の一環として病棟と医師との連携を図り、よりよい検査・治療へつなげるため術前訪問を導入している。平成26年度、画像C全体で看護師が関わる検査・治療数は約42000件でそのうち術前訪問対象となる放射線科が行った血管造影検査・治療は231件であった。A総合病院は、急性期医療として救命救急、小児救急、ドクターヘリ基地病院でもあるため、画像Cでは血管造影以外でも内視鏡検査を始め全科の検査・治療と多岐に渡り対応している。そのような中で医師とともに術前訪問を行う方法を導入し、4年が経過した。IVR領域の術前訪問は有用であると立証されているが、画像Cでも今回、患者が安全で安心して検査・治療を受けられるように現状の把握と振り返りを行ったので報告する。

【方法】 師長、臨時採用看護師、研究メンバーを除く画像診断治療センター看護師15名にアンケート調査をおこなった。

【結果・考察】 15名中15名より回答を得た。（回収率100%）術前訪問は13名（86.7%）が経験しており全員が必要だと感じていた。その理由として、カルテ上の記録からは得られない患者の状態・状況・精神的な情報が得られ、病棟看護師、医師、画像C看護師で患者の情報を共有できるといったことであった。また、8名（61.5%）が効果的に行えているという回答があり患者からも、不安の軽減につながったという言動も聞かれていた。しかし、9名（69.2%）が困ったことがあったと回答した。その主な内容は訪問時間の調整が難しいことだった。今回アンケートを行ったことで現状を把握することができ、今後の課題も見出せた。

P-6B-92

手術後のレントゲン写真を用いた 医療用高精細モニタの有用性の検討 石巻赤十字病院 放射線技術課

○安住 渉

【背景】 現在、多くの医療施設でモニタ診断が普及している。当院もモニタ診断を行っており、放射線技師がモニタ管理を行っている。高精細モニタの特徴として常に安定した輝度を保ち、モノクロとカラー画像を最適な輝度と階調で再現できることなどがある。高精細モニタは汎用モニタよりも画像を観察することに適していると言われるが、実際に同じ画像を高精細モニタと汎用モニタで見比べる機会はありません。また、当院では手術後のガーゼ確認などのために撮影したレントゲン写真を高精細モニタではなく、汎用モニタを使用して観察することがしばしばみられる。

【目的】 手術後のレントゲン写真を用いて医療用高精細モニタと汎用モニタの視認性を比較し高精細モニタの有用性を検討する。

【方法】 手術後のレントゲン写真および、当院の手術室で使用している X線マーカーを含んだガーゼと胸部ファントムを用いて、体内にガーゼが留置されているという設定の写真を撮影し、その写真を使用して高精細モニタと汎用モニタの両方で視覚評価を行った。

【結果・考察】 汎用モニタよりも高精細モニタの方が観察しやすいという結果が得られた。これにより、実際の手術後の確認時には高精細モニタを使用することで、体内に留置されたガーゼの見落としを防ぎ、安全性が向上するといえる。

P-6B-94

フレーズと絵により医療人としての驍を 考えさせるモラルカードの作成と運用 釧路赤十字病院 医療技術部 臨床工学課

○中西 沙希子、村上 貴大、三島 諒祐、福井 寛之、神保 和哉、熊谷 弘弥、能代谷 翼、齊藤 貴浩、尾嶋 博幸、倉重 諭史

【はじめに】 当院では院内全体で5S活動に積極的に取り組んでいる。当課では5S活動の中でも特に、絵に重点を置き、医療人としての驍を考えさせるモラルカードを作成し運用した。その結果について報告する。

【経緯】 手術室に設置してある血液ガス分析装置（以下血ガス装置）サンプル採取口台座部分に血液が垂れ、清拭されず放置されている事が多発した。手術室スタッフには使用後清拭するよう手術室ミーティングにて、その都度口頭による注意喚起を行ったが改善せず当課で新たな対策を検討した。

【方法】 日本たばこ産業の喫煙マナー向上広告「あなたが気づけばマナーは変わる」運動をモチーフに見た人の心に訴えるフレーズと絵を用いたモラルカードを作成した。コンセプトとして「自分が気付く、自分だけでなく周りにも気付かせる、医療人としての驍を考えさせる」事を掲げた。実際に血ガス装置汚染対策用に作成したカードには「初めから汚れていました。こぼした血は拭きませんでした。それ、人に言えますか。」というフレーズと汚れを放置したまま人が離れる姿を描いた。それをラミネート加工し使用者が必ず目に入る場所に貼り付けた。

【結果】 貼り付け後、以前に比べ血ガス装置が汚れたまま放置される事が激減した。

【考察】 “心に訴えるフレーズ”と“絵”を盛り込んだ目新しいカード形式による注意喚起方法と貼付場所の工夫で血ガス装置使用者が自発的に汚れたら清拭を行う、使用者に医療人としての驍を考えさせる一定の効果が得られたと考えられる。

【結語】 モラルカードにより一定の効果は得られたが決してゼロになった訳ではない。今後もこのような活動を更に工夫、応用し継続していく必要がある。

P-6B-91

注射業務を安全に実施するための電子カルテ推奨画面の検討 武蔵野赤十字病院 看護部

○佐々木 理恵

【目的】 注射を安全に実施するために、複数ある電子カルテ画面のどの画面情報を用いているのか現状を調査し、情報媒体の特徴と合わせ推奨する画面の検討を、電子カルテ委員会と看護安全委員会で行った。

【実践】 <方法> 注射実施の際に確認画面として使用する画面を無記名式アンケート調査した。各部署の看護師長にアンケート配布を依頼した。<対象> 23部署の管理者を除く経験年数の異なる看護師5名ずつ115名。<調査期間> 平成26年9月10日～22日。<倫理的配慮> 記載内容と提出の有無、個人が特定できないよう、直接電子カルテ委員会にて提出とし匿名性の厳守をした。

【結果】 回収率75%。注射プロセスごと看護師によって使用する画面は異なっていた。上位3つは、情報収集（注射指示確認）時は「経過表」「ワークシート」「指示簿」の順に多く使用され、注射の準備、混注時は、「注射ラベル」「経過表」「指示簿」の順、実際に患者に投与する時は、「患者認証画面」「注射ラベル」「経過表」の順に使用されていた。

【考察】 看護師は自己のやりやすさを優先して画面を選択しており、それ以外に印刷物も使用している事がわかった。情報媒体の特徴は、「経過表」「指示簿」「注射カレンダー」「患者認証画面」は電子カルテ画面であり、常に最新の情報である。「注射準備一覧」「注射ラベル」「ワークシート」は印刷物で最新の情報ではない。それらより注射を安全に実施するために推奨する画面は、情報収集時は「注射カレンダー」でその患者に出されている全ての注射を把握しコメントを確認する。注射準備時は「経過表」や「注射カレンダー」で変更がないかを確認する。投与時は「患者認証画面」で6Rを確認することを推奨する。

P-6B-93

持参薬受付時におけるお薬窓口問診票、 写真撮影システムの導入 大森赤十字病院 薬剤部

○博田 舞子、高田 あゆみ、市川 騰、川村 千穂、天舛 成子、平岩 知子、市川 敬太、後藤 亨

【目的】 当院では、(1)本人又はキーパーソンからの確実な情報収集 (2)病棟担当薬剤師の初回面談及び情報収集時間の短縮 (3)副作用歴、アレルギー歴、手術目的患者の術前中止薬の確認の徹底のため、昨年より予約入院患者に対し持参薬を預かる際、問診票による患者基本情報の収集を開始した。また、預かったお薬手帳、薬の説明書などの返却忘れ防止のため写真撮影システムを導入した。今回これらについて、問診票活用による病棟薬剤業務の有用性と効率化、医療安全への貢献の両面から考察したため報告する。

【方法】 病棟の初回面談にて聴取する内容（副作用歴など）、入院前からの中止薬、中止時期を記入するお薬窓口問診票を作成し電子カルテ化した。さらに、問診票導入により病棟での業務量や業務時間の短縮など有形効果があるか、問診票の確認により医療安全上のリスク回避に繋がった症例があるかについて病棟担当薬剤師を対象にアンケートを行った。

【結果および考察】 病棟薬剤師のアンケートから、お薬窓口問診票を活用することで事前に患者情報が得られる為、初回面談での質問にかかる時間が短縮されたことが示された。また、中止薬に関しても薬剤師の確認が複数回に渡り、医療安全にも貢献したと考えられる。さらに問診票を電子化したことにより、他職種も患者の事前情報が得られるようになった。写真撮影システムの導入に関しては、画像で記録した後から預かった物を確認できるため、退院時の返却トラブルへの解決策の一つとなった。現在はお薬窓口で持参薬を受け取るのがほぼ予約入院のため、今後病棟での緊急入院患者においても検討を行っていきたい。

P-6B-95

BD ネットシーバディフェュージックスの使用経験 那須赤十字病院 放射線科

○大木 敦史、佐藤 統幸、中野 繁明、加藤 美和、磯 裕樹、天沢 麻紀、川田 敏江

【目的】 サーフロ針とディフェュージックスの比較

【方法】 2週間 サーフロ針の代わりにBD ディフェュージックスを使用し、使い勝手、血管外漏出の有無、最大注入圧などを記録し、比較検討する。

【結論】 注入圧が特別に変化するような変化はみられなかったが、保険請求できる点や使い勝手が良い点などの利点が認識できた。